

ACP 臨床研究 WS シリーズ 3「論文執筆に活かせる FIRM2NESS チェック」

ACP Japan Chapter Annual Meeting 2015

1. 開催日時・場所

2015 年 5 月 31 日（日）9:30～11:00 京都大学時計台記念館

2. 目的

FIRM2NESS チェックによる臨床上的研究疑問（リサーチ・クエスチョン）の磨き方をグループワーク形式で学び、さらに論文執筆の過程で FIRM2NESS チェックがどう活かされるかを知る。

3. 目的達成のための方略

- ・ 限られた時間でのワークショップ開催のため、参加者には事前学習 2 点を済ませていただいた。①Web 講義の視聴：「リサーチ・クエスチョンの作り方」、②ワークショップ当日のシナリオを読み、リサーチ・クエスチョンの提出。参加者の 8 割強が Web 講義の視聴をされ、6 割がリサーチ・クエスチョンを提出された。
- ・ 当日はグループワークを行い、リサーチ・クエスチョンをブラッシュアップした後、発表とフィードバックを行った。また、FIRM2NESS チェックが論文執筆にどう役立つかのミニ講義を行った。

4. 企画運営者（◎が企画責任者）

◎福原 俊一（ACP 日本支部理事、京都大学医療疫学分野 教授、福島県立医科大学 副学長）

白河総合診療アカデミー

東 光久（SPC 副委員長、特任准教授）、高田 俊彦（特任講師）

福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター 助手

矢嶋 宣幸、小林 奏、新畑 寛也、飯田 英和、長沼 透

福島県立医科大学附属病院 臨床研究教育推進部 (DiRECT)

◎栗田 宜明（SPC 委員、ACP 日本支部年次総会 2013-2015 演題査読委員長）

京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野

池之上 辰義（助教）、清水 さやか（特定助教）

5. 参加者

本ワークショップへの事前参加登録者は **50 名**であり、内訳は医学生が 2 名、研修医が 14 名、医師（卒後 6 年以上）が 33 名、その他医療従事者が 1 名であった。当日とびこみ参加者は **5 名**であった。本ワークショップのターゲットは医学生・研修医だが、参加者の 7 割がターゲット層よりも高い卒後年数の医師であった。

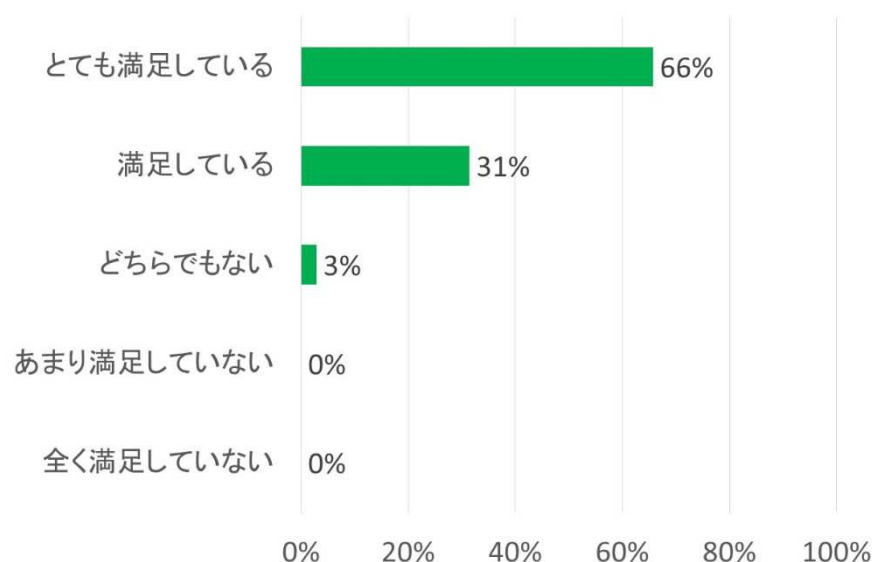
6. 当日のプログラム

9 時 30 分：開始のあいさつ	福原 俊一
9 時 40 分：グループワーク	ファシリテーター全員
10 時 10 分：発表・フィードバック	受講者、福原 俊一
10 時 35 分：FIRM ² NESS を活用した論文執筆	栗田 宜明
10 時 55 分：まとめ・お知らせ	東 光久、矢嶋 宣幸
11 時 00 分：解散	

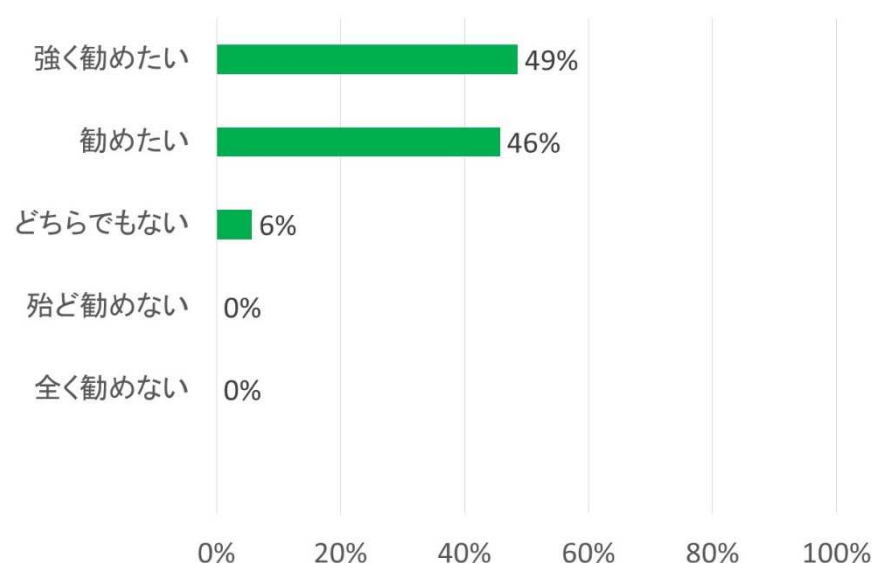
7. 参加者からの事後評価（回答者数 41 名）

ワークショップ全般について

問1. 本セミナーの全体的な満足度を 5 段階で評価して下さい

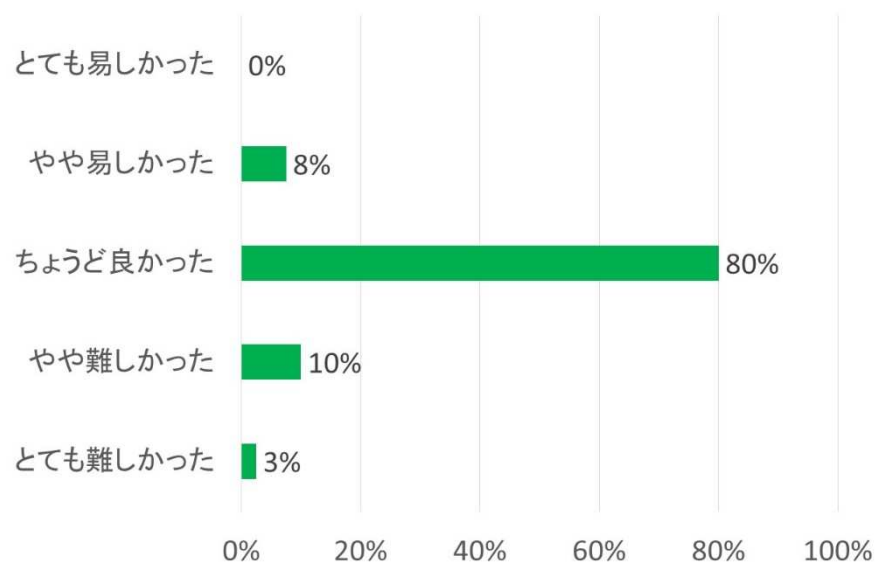


問2. 本セミナーへの参加を他の人に勧めますか？

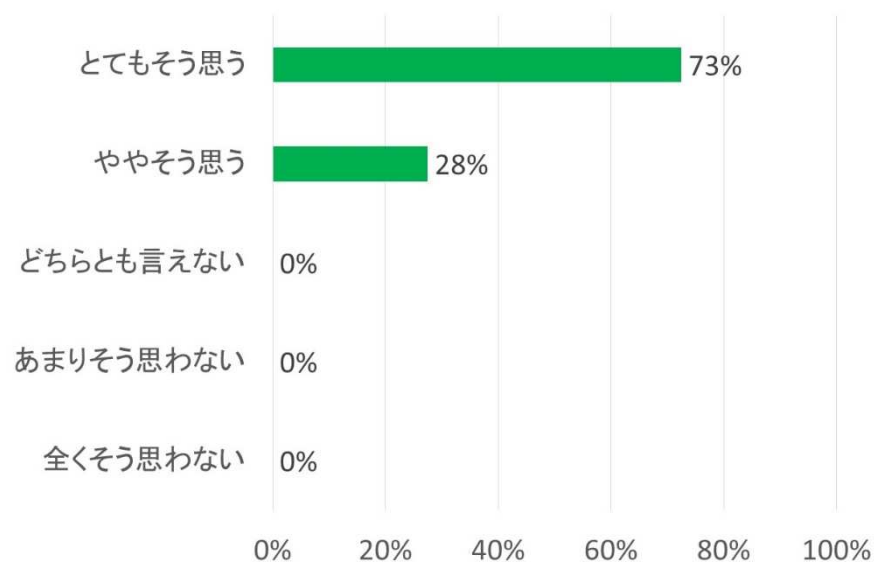


グループワーク・発表について

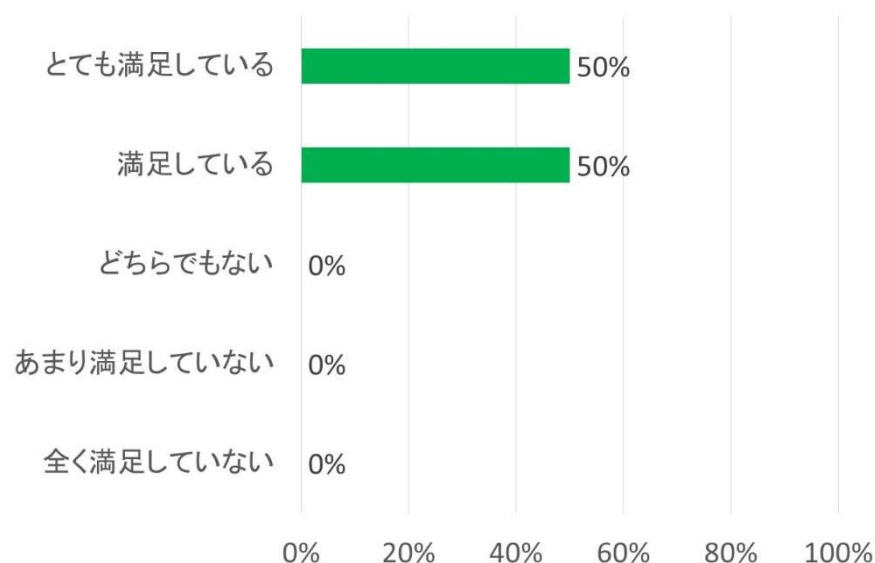
問3. 難易度は適切でしたか？



問4. 今後の研究活動に有用であると思いましたか？



問5. 満足度を 5 段階で評価して下さい

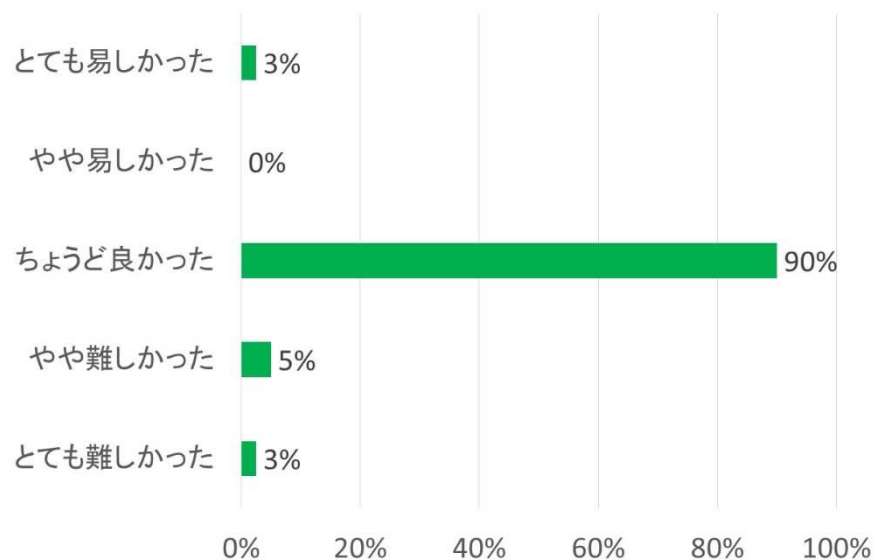


問6. 問 5 について、なぜそのようなご回答されましたか？（自由記載、抜粋）

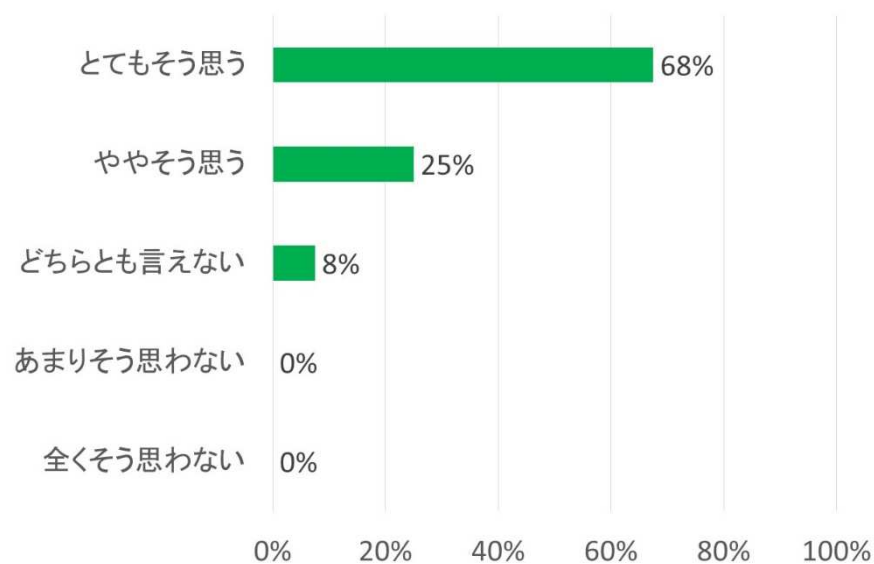
- ・ 若い先生方が研究するのに有用な情報をいただきました。
- ・ 実際に何をすべきかが、具体的で明日から実行できる。
- ・ ワークショップ形式で初心者でもわかりやすかった。
- ・ ディスカッションの中で、FIRM2NESS チェックの方法が具体的に理解できた。他の人の意見も勉強になった。
- ・ メンターの先生より、feedback をもらいながらグループワークができたので。
- ・ 他班の発表をみて、理解が深まった。
- ・ 実際に今もデータを用いて考察を行おうと考えていましたが、その道標が見えました。ありがとうございました。

ミニ講義「FIRM²NESS を活用した論文執筆」について

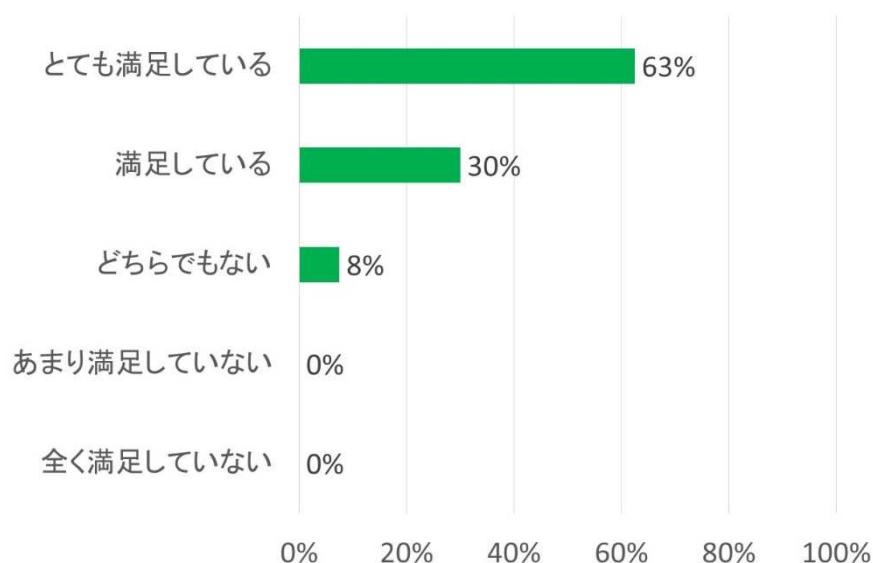
問7. 講義の難易度は適切でしたか？



問8. 今後の研究活動に有用であると思いましたか？



問9. 満足度を 5 段階で評価して下さい



問10. 問 9 について、なぜそうにご回答されましたか？（自由記載、抜粋）

- ・ **臨床研究の組み立て方→論文への流れが見えるようになった。**（実際はもっとたくさんの行程があると思いますが、見通しがよくなりました。）
- ・ **論文を書く際の留意点、ポイントが詳細に理解でき、自分でも論文を記すハードルも下がりました。**
- ・ 論文執筆する上で Discussion の構成、書き方がわかりやすく解説されていた。
- ・ paper にもりこむべき項目について学べた。書き方についてこれまで全く知らなかった、さらにそれらにもりこむべき工夫について学べた。PECO、FIRM2NESS をしっかり最初に検討しておくことがやはり重要だと思えた。
- ・ 今臨床研究に取り組もうとしているので、本などを利用して勉強中ですが、わかりやすい講義で理解がとても深まりました。
- ・ 久しぶりに論文を書きたいと思った。ありがとうございました。
- ・ 論文執筆を今までしたことがないので、してみたいと思いました。

問11. 今回のワークショップについて、ご質問・ご感想などなどございましたらご記入ください。

- ・ 若い院生や研修医にも経験していただきたいです。
- ・ しきいが高い「研究作法」をできるだけ早い段階で払拭できるよう普及につとめてください。
- ・ 事前学習の設定など学びやすかったです。
- ・ ビデオオンデマンドの接続が悪く視聴できませんでした。
- ・ 時間がもう少しあれば深い discussion ができたと思います。
- ・ 少し時間が短かった。
- ・ FIRM2NESS チェックは分かりやすいと感じますが、まだ研究への障壁が多い感じが残りました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ もっと時間をかけて議論ができる機会があればとおもいます。

